

2021年大学入学共通テスト 英語<リーディング>講評

あすなろ学院 英語科

【分析】

大問	読解内容	マーク数	配点	難易度	注目点	予想平均点
第1問	A:携帯メールでのやり取り	2	10	易	①総単語数 5340語 →昨年のセンター試験は 4384 語 →読解問題になり、語数が1000語近く増	55~58 点 標準レベル
	B:ファンクラブのウェブサイト	3		やや易		
第2問	A:コンペに対する評価	5	15	易	②マーク数は 47 →昨年のセンター試験は 54 →マーク数は減少した	55~58 点 標準レベル
	B メールのやり取り	5		やや易		
第3問	A:ウェブサイト上の Q&A	2	20	やや易	③試行問題や模試の傾向とは違った →これに戸惑った受験生もいると思う	55~58 点 標準レベル
	B:交換留学生による学校新聞	6		やや難		
第4問	E メールでのやり取り	6	15	やや難		
第5問	ニュース記事	9	16	やや難		
第6問	A:記事とポスター作成	4	24	やや易		
	B:論説文	5		やや難		

※難易度→「易」…全問正解できる「やや易」…7割正解できる／解答を出すまでに時間がかかる「やや難」…5割正解できる／解答を出すまでに時間がかかる「難」…正解できて3割

【全体講評】

これまでに実施してきた、試行問題や模試で慣れてきた生徒からすると、一瞬面を食らった出題であった。しかし、一つ一つ見ていくと、難易度は高くななく、また、使用されている英単語も、文脈から類推しやすいものが多かった。これまでに英文精読をどれくらい行ってきたか、時間を計って英文を読む練習をしてきたか、その量が明暗を分けることを実感させる問題であったと思う。平均点としては、世間で言われているほど低くはなく、5割強くらいと予想する。

【全体講評】

第1問 A:出だしから、これまでの傾向とは違ったが、設問と内容を考えると解答しやすかったと思う。

第1問 B:問2の選択肢の単語で戸惑う受験生がいたかもしれないが、3問中2問は解答しやすかったと思う。

第2問 A:「表」は「事実」になることに気付いていれば、消去法で正解の選択肢を見つけることはできたと思う。

第2問 B:選択肢が多かったが、読み取る文章が短かった。問5で選択肢に悩んだ人もいるのではないかと思う。

第3問 A:問2でかかる時間を計算させる問題があったため、その情報を拾うのに時間がかかった人もいると思う。

第3問 B:問1の時系列を答える問題は、「文脈の流れとは異なる」とこと、「時制」に注目できたかどうか。

第4問 :問1、問2、問3で時間をとられた印象。この問題を解く際に、残り時間に余裕があれば問題なく解答できた。

第5問 :この問題文を一気に読めるくらいの集中力が欲しかった。文脈把握がないと苦戦する問題だった。

第6問 A:ポスターの空欄箇所を本文から見つければ、見た目以上に時間がかかるないし、解答しやすい問題であった。

第6問 B:問2は、メモをとるなどしておかないと、解答のために色々と遡る羽目になり、そこに時間をとられたと思う。

【学習対策】

今回の問題とそれまでに至る模試などを考えると、早期に英語の基礎（語彙と英文法）を受験レベルまで仕上げて、いかに受験生の年に、英文の多読に取り掛かれるかが明暗を分けると思う。

いい例えかどうかは分からぬが、「好きな漫画のことなら、誰から聞かれても答えられる」、「この曲は歌詞を見なくても、楽譜を見なくても歌える、弾ける」という自信は、何度もその漫画や音楽に触れていたからこそ生まれるものである。それと同じことが、この共通テストのリーディングにも言えると思う。「傾向に慣れてきたから、点数が取れる」という取り組みでは、7割の壁は超えられないと言える。

日ごろ取り組んでいる、教科書の英文に制限時間を設けて、内容把握する練習を行ったり、音読を取り入れたりして、目で追うスピードと理解するスピードのズレを無くす練習を取り入れて欲しいと思う。

また、LIVE 授業や ASU-vision の授業で行っている、「英文解釈」の講座を2年生のうちに受講し、英文法と英文を読むことへの土台を築いた上で、受験生の年を迎えるようにしよう。

2021年大学入学共通テスト 英語<リスニング>講評

あすなろ学院 英語科

【分析】

大問	読解内容	マーク数	配点	難易度	注目点	予想平均点
1	A:短文発話・内容一致	4	25	やや易	①読み上げた単語数語 1,528 語 →センター試験 1,142 語	50~53 点 標準レベル
	B:短文発話・イラスト選択	3		やや易	→制限時間は30分と変わらない	
2	対話文・イラスト選択	4	16	やや難	②配点が100点になる	
3	対話文・質問選択	6	18	やや難	→センター試験では50点	
4	A:図表完成問題(モノローグ)	8	12	難	③第3問以降は読み上げ回数が1回 →センター試験では2回	50~53 点 標準レベル
	B:質問選択問題(モノローグ)	1		やや易	④聞き取った情報を駆使する問題	
5	ワークシート完成(講義・長文)	7	15	やや難	⑤マーク数は 37 →センター試験では 25	
6	A 対話文・質問選択	2	14	やや難		
	B 会話長文・意見・図表選択	2		やや難		

※難易度→「易」…全問正解できる「やや易」…7割正解できる／解答を出すまでに時間がかかる「やや難」…5割正解できる／解答を出すまでに時間がかかる「難」…正解できて3割

【全体講評】

読み上げられる語数が増えたこと、解答する問題が増えたこと、読み上げ回数が1回になった問題もあるなど、これまでの状況とは大きく異なるため、この変化を聞き取る前に気付いて、聞き取る準備が必要であった。気付くと、次の問題に移ってしまっていたという受験生も少なくないだろう。ただ、内容としては、センター試験の過去問題で練習していれば問題はなかったと思う。リーディング同様、変化にいかに早く適応できたかが明暗を分けたと思う。平均点としては、世間で言われているほど低くはなく、5割強くらいと予想する。

【全体講評】

第1問 A:問3は2回目で確認できたかどうか、問4は「時制」への意識があったかどうかで決まった問題。

第1問 B:問6の最後の部分の内容が鍵。聞き取れた内容の意味が分からないと路頭に迷ったと思う。

第2問 :問9、問10の中盤から後半にかけて、何を言っているのか分からなくなったのではないかと思う。

第3問 :ここから1回の読み上げなので、解答判断に時間をとられて、次の設問に目を向けていないと、十分な判断ができるまま解答時間が終わってしまったと思われる。

第4問 A:最初の問題は「割合」を答えるため、苦手にする人が多かったと思う。

そのあとの問題は、「選択肢を2回以上使ってよい」ということで、判断に意識をとられ、以降の問題を聞き取り逃した人が出たと思う。第3問でペースを崩されたまま、切り替えられずにいた人もいたのではないかと思う。

第4問 B:“条件”に意識を集中していれば、解答するのは簡単だった。

第5問 :最初の問題は“講義”だったので、一旦内容を聞き取ることに集中していれば良かったと思う。しかし、選択肢を見ながら聞いていると、恐らく内容についていけなくなり、放棄したのではないかと思う。次の問題も、最初の内容を踏まえての問題なので、人によっては、第5問が全滅したと思われる。

第6問 A:状況を踏まえて話全体を聞くことに専念できたかどうか。問い合わせを聞き取ろうと試みると不明のまま終わったはず。

第6問 B:A 同様、話の内容をまず聞き取ることに専念していたかどうか。第5問以降は習得語彙量も影響したと思う。

【学習対策】

「どのように聞き取るか」のスタンス（「聞くなら聞く」、「聞きながら選択肢を見る」）の判断が求められた試験だったと思う。この判断が大きな差になったと思う。「リスニング=聞き取ればいい」という考えは、このテストには通用しない。また、単語を習得する際に、音と一緒に聞きながら覚えていたかどうかかも、リスニングをする際にはポイントになる。

対策としては、台本見ながらいいので、同じスピードで声に出す練習を勧める。話したことがないスピードを聞き取るのは難しいからである。音源があるものであれば何でもいいので、同じスピードで滑らかに話せるまで練習してほしい。